

末永雅雄 マツナガ タカオ 考古学者、文藝博士。明治二十年六月二十三日大阪府南河内郡茨山生れ。平成二年五月七日没（八九七―一九九一）。父は俳人末永一花、その歿後『迎月庵幻餘可集』（昭和十二年七月一日大阪・末永雅雄編輯）を出版。初の高瀬貞卿の史學を、關保之助の考古學、有職故實等を學ぶ。大正十五年より京都帝國大學文學部で濱田青陵、石田直久の師から考古學、歴史學の研究指導を受ける。昭和二年奈良縣史蹟石勝大徳院念物調査會囑託となり遺跡調査に携はる。十一年『日本上代の甲冑』（および帝國學士院賞受賞。十二年奈良縣橿原考古學研究所創設。その後陸軍囑託、大谷大學教授、二十七年からは關西大學教授。六十二年文化勳章受章。

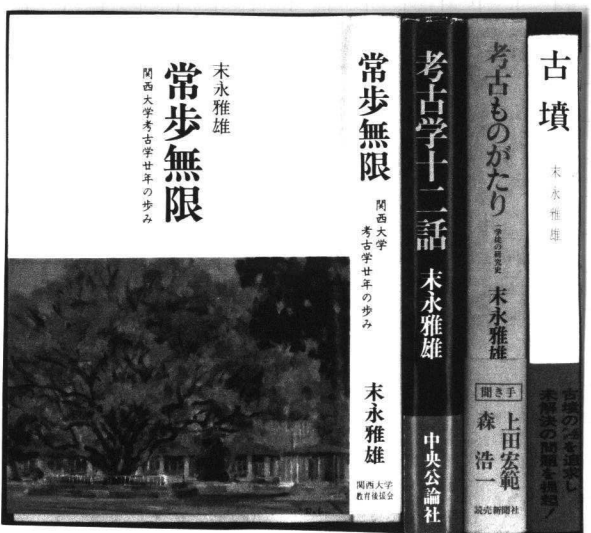
著書に『大和の古墳墓』（昭和十六年八月五日大阪・近畿觀光會）『大和路』（、『日本武器概説』（昭和十八年十一月十日京都・桑名文藝堂）、『奈良の上代文化』（中村直勝・魚津惣五郎等合著、橋本凝胤編、昭和十九年十一月十五日大阪・全國書房）、『塔輪』（昭和二十一年一月二十日京都・大八洲出版株式會社）『古文化叢刊』（、『池の文化』（昭和二十一年六月二十日）創元社）『古文化庫』（、『古墳』（昭和二十四年九月十日學生社）、『考古ものがたり』『考古学徒の研究史』（昭和二十五年十月）



（昭和二十五年十月）

範・森浩一、昭

和五十七年四月二十日京都府葛城郡在（、『日本考古学』



- 〔一話〕 (昭和五十一年十月二十日中央公論社)、『常志無限―関西大
学考古学廿年の歩み』 (昭和六十二年十一月四日大阪・関西大学教育
後援会)等。向谷進著 『考古の巨星―末永雅雄と』 (糧原考古学研究所)
(平成六年四月一日文藝春秋)がある。